

今月の一品 令和 3(2021)年 9 月



 飯能市立博物館  
Ina Municipal Museum

## 説経節台本「飯能の嵐」

引間 隆文



先日放送された大河ドラマ『青天を衝け』では、岡田健史さん演じる渋沢平九郎が壮絶な最期を遂げました。

飯能戦争で自刃した渋沢平九郎は、無位無官の若者であり、これと言った勲功を立てた人物ではありません。それでも歴史に名を残したのは、偏に平九郎を見立て養子とした渋沢栄一のお陰と言えましょう。

栄一は、平九郎の生涯を記した記録を作成したり、その死を題材とした演劇『振武軍』を帝国劇場で上演させたりしています。これにより平九郎は「悲劇のヒーロー」として人々に知られるようになりました。

今回ご紹介するのは、平九郎を主人公とした説経節の台本『飯能の嵐』です。

説経節とは、中世に起源を持つ芸能です。江戸時代以降、衰退・再興を繰り返しましたが、レコードやラジオなどのメディアを駆使して一世を風靡した説経師・初代若松若太夫（以下、初代）の活躍により、明治から昭和初期にかけて絶大な人気を誇った芸です。

説経節『飯能の嵐』を作詞したのは、吾野村北川（現・飯能市大字北川）出身の大野鐵人（本名・大野嘉太郎）です。初代の弟子として「若松國土太夫」の芸名で説経を語ると共に、創作説経節を多数作詞しました。

平九郎の最期を題材とした『飯能の嵐』は、大野が作詞し初代が作曲した作品で、上演時間は約 35 分です。所々、ツッコミを入れたくなる場面はあるものの、追っ手との緊迫したやり取りなど、今聞いても十分に魅力的な作品です。

本作は、昭和 12(1937)年に能仁寺に建立された「振武軍碑」建碑式の際にも初代によって上演されています。この式には、平九郎の兄・尾高惇忠の孫である尾高豊作も出席していました。ちなみに、初代のパトロンの中の 1 人が栄一であり、大野は「振武軍碑」建立発起人の 1 人でした。

平九郎という夭折した青年を介して、様々な縁が生じました。そして今も、彼は多くの人と飯能との縁を取り持っています。

### 【参考文献】

飯能市立博物館『特別展 山里に咲いた芸—説経師・薩摩千代太夫と幻の「片瀬人形」』 令和 2(2020)年